

2019年10月7日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 530

20年度以降の大学進路を拓く――

中長期計画の策定とブラッシュアップ方策

～ 何が実現し、何が未達成か／P D C Aと深化策／経営と教学の協働 ～

《10月24日（木） 開催》

【企画協力：学校法人 城西大学】

ご参画・ご派遣のお願い

改正私学法により新たに大学・学校法人における「中期的な計画」の策定が義務づけられ、2020年4月から施行されます。次の4項目が規定されています。

1. 毎会計年度、予算及び事業計画を作成
2. 事業に関する中期的な計画を作成
3. その際、認証評価の結果を踏まえて作成
4. 予算及び事業計画、中期的な計画の作成にあたっては、あらかじめ評議員会の意見を聴く。

私学事業団の「2018年4月調査」によれば、「中長期計画の策定状況」は、大学法人において「策定済み」75.0%、「策定中」20.1%、短大法人においてそれぞれ67.0%、23.4%あります。

「開始年度」は、大学法人において「2005～11年度」が36.6%、「2016年度以降」が53.7%、短大法人においてはそれぞれ47.6%、50.8%となっています。

本セミナーでは、実効性ある中長期計画の策定とP D C Aサイクルの深化によるブラッシュアップ方策について、4人のコアパーソン氏を迎えて開催いたします。

この10年余にわたり、全国の大学110校余を訪問し、経営・執行陣から、計画経営に係る具体的な取組み事例を調査研究してこられた篠田 道夫氏（桜美林大学）から、事例にみる「効果のある計画」づくりと「いかに実行し、成果を上げ、評価改善しているか」についてのご報告とP D C Aの要点について論展いただきます。

名城大学においては、2015年度から「MS-26 戦略プラン」（12カ年計画）を策定・推進しています。前計画からのC・Aのプロセスとともに、「全学版－各部署版」の策定と年

度事業計画における「行動計画～実行～成果検証～次年度計画」の計画マネジメントの取組みと実際について、武藤 正美氏に報告いただきます。

二松學舎は、前計画の検証・深化を踏まえ、2017年10月に「N' 2030Plan」（10カ年計画）を策定しております。毎年度に「全学アクションプラン」を詳細に作成し、具体的進行管理を展開しています。全教職員がいかに情報共有し、実践しているかについて、西畑 一哉氏から報告いただきます。

工学院大学は、創立130周年の2017年に「新VISION150」（20カ年計画）を改定するとともに、中期計画「コンパス 2023」（6カ年計画）を策定しました。計画のローリングにあたっては、継続性と柔軟性が重要であり、若手教職員の積極的参画が必須であることについて、杉原 明氏から報告いただきます。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/191024.pdf>